



情報メディア工学特論

特異点可視化

2004/11/16

京都大学高等教育研究開発センター情報メディア教育部門

学術情報メディアセンター連携研究部門(兼任)

大学院工学研究科電気工学専攻(兼担)

小山田耕二



コース概要 (2/2)

- 特異点ベース可視化技術
 - 渦可視化(11/16)
 - 等値面表示高速化、DT-MRI可視化(11/30)
- システム開発技術/OpenGL基礎
 - オブジェクト指向システム開発技術(12/7)
 - 基本オブジェクト設計(12/14)
- 可視化システム実装演習
 - 等値面表示システム(12/21)
 - ボリュームレンダリング表示システム(1/11)
 - 流線表示システム(1/18)



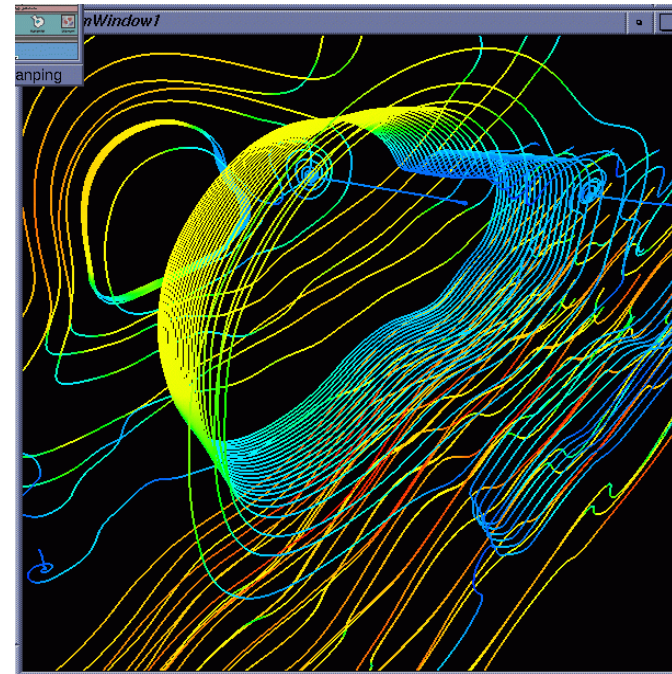
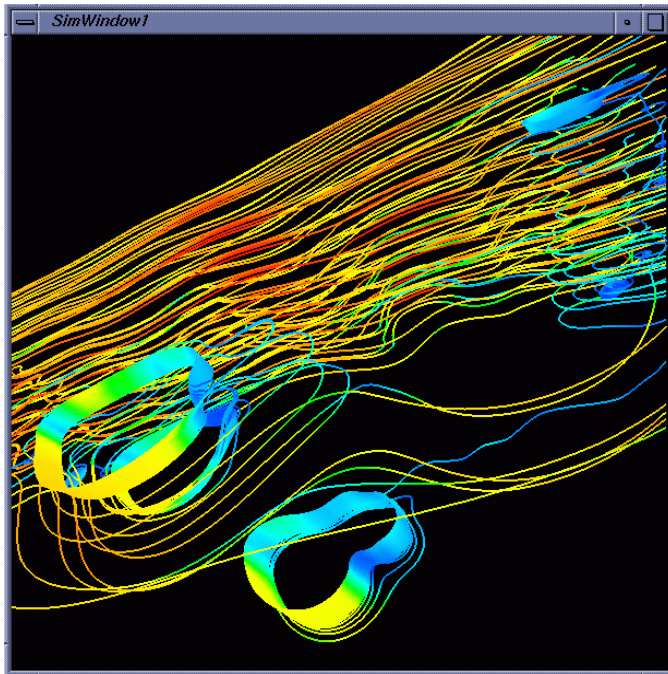
内容

- **特異点可視化**
 - **流線表示法**
 - 流線開始点の設定
 - **4面体格子を用いて特異点を求める方法**
 - 体積座標を使った補間
 - 4面体行使内部でのベクタデータ補間
 - 特異点の探索・分類



流線表示手法

- 流線は、各点での接線がそこでのベクタデータに平行であるような曲線である



<http://www.erc.msstate.edu/~zhanping/Research/FlowVis/Streamlines/Streamlines.htm>



流線開始点の設定

- 渦を流線表示により可視化する場合, 渦の中心付近の適切な開始点が必要
 - コンピュータグラフィックスディスプレイ上で対話的に開始点を指示することは, 一つの有効な手段である.
 - 速度データの分布をあらかじめ知っていないと, 適切な流線の開始点を見つけるのは困難である.
 - 開始点を指示するための有効な手段として, 特異点 (a critical point) 付近に開始点を設定することが考えられる.
 - 特異点は, 速度データがゼロベクタとなるような点



Glubusらの方法

- **格子内部における速度場は, 格子点で定義された8つの速度ベクタと3次元線形補間を用いて表現される.**
 - それぞれの速度成分は, 格子内部の局所座標の3次式となる.
 - 特異点を求めるには, 各格子毎に非線形連立方程式を解く必要がある.
 - 正しい解に収束しない場合がある
- **直交格子上で定義された速度データを対象としているため, より一般的な非構造格子で定義された速度データに適用することが不可能**
 - 非構造格子は, 有限要素法解析等で用いられる格子
 - 多くの場合, 非構造格子は, 4面体格子から構成される.



4面体格子を用いて特異点を求める方法

- 今, 3次元空間で速度場 $\mathbf{v}=(u,v,w)$ が定義されていると仮定する. 空間内の1点 $\mathbf{x}=(x^0,y^0,z^0)$ において, この速度場を2次微分項以下を無視してテーラー展開を行うと,

$$u = u^0 + (x - x^0) \frac{\partial u}{\partial x} + (y - y^0) \frac{\partial u}{\partial y} + (z - z^0) \frac{\partial u}{\partial z}$$

$$v = v^0 + (x - x^0) \frac{\partial v}{\partial x} + (y - y^0) \frac{\partial v}{\partial y} + (z - z^0) \frac{\partial v}{\partial z}$$

$$w = w^0 + (x - x^0) \frac{\partial w}{\partial x} + (y - y^0) \frac{\partial w}{\partial y} + (z - z^0) \frac{\partial w}{\partial z}$$

- ここで, $\mathbf{v}=(u^0,v^0,w^0)$ は, 点 $\mathbf{x}=(x^0,y^0,z^0)$ における速度データである.
- 特異点 $\mathbf{x}=(x^{\text{CP}},y^{\text{CP}},z^{\text{CP}})$ では, $u^{\text{CP}}=v^{\text{CP}}=w^{\text{CP}}=0$ となり, 上式は, 特異点付近での速度場の挙動を線形近似したもの



4面体格子内部でのデータ補間

- 4面体格子内部において, 体積座標系を使って, データ補間を行う.
 - 体積座標系は, 4面体内部で 定義される局所座標系
 - i 番目の成分 は, 4面体の体積と内部点 X と i 番目の頂点の対面がつくる小4面体の体積の比
- 内部点 (x,y,z) において, ベクタデータ $X=(u,v,w)$ は, 以下のように表現される.

$$\begin{pmatrix} u \\ v \\ w \end{pmatrix} = p \begin{pmatrix} u_0 \\ v_0 \\ w_0 \end{pmatrix} + q \begin{pmatrix} u_1 \\ v_1 \\ w_1 \end{pmatrix} + r \begin{pmatrix} u_2 \\ v_2 \\ w_2 \end{pmatrix} + (1 - p - q - r) \begin{pmatrix} u_3 \\ v_3 \\ w_3 \end{pmatrix}$$

- ここで, (u_i, v_i, w_i) は, i 番目の頂点において 定義されているベクタデータを, そして (p,q,r) は, 内部点の体積座標のうち独立する3成分からなるベクタを表す.



4面体格子内部でのデータ補間

- (p, q, r) についてまとめると,
$$\begin{pmatrix} u - u_3 \\ v - v_3 \\ w - w_3 \end{pmatrix} = Mv \begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix}$$
$$Mv = \begin{bmatrix} u_0 - u_3 & u_1 - u_3 & u_2 - u_3 \\ v_0 - v_3 & v_1 - v_3 & v_2 - v_3 \\ w_0 - w_3 & w_1 - w_3 & w_2 - w_3 \end{bmatrix}$$
- 内部点 自身も頂点で定義された全体座標データ から補間計算され则认为ると, ベクタデータと同様に右のように表現することができる.
$$\begin{pmatrix} x - x_3 \\ y - y_3 \\ z - z_3 \end{pmatrix} = Mx \begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix}$$
$$Mx = \begin{bmatrix} x_0 - x_3 & x_1 - x_3 & x_2 - x_3 \\ y_0 - y_3 & y_1 - y_3 & y_2 - y_3 \\ z_0 - z_3 & z_1 - z_3 & z_2 - z_3 \end{bmatrix}$$
- ここで, (x_i, y_i, z_i) は, i 番目の頂点座標である. 上式は, 体積座標から全体座標への座標変換を表現している.



特異点の探索

- 4面体格子の中に特異点があるかどうかを調べるために, 式(2.4)において, $(u,v,w)=(0,0,0)$ とおき, 体積座標 (p,q,r) に関する連立方程式を得る.

$$\begin{pmatrix} -u_3 \\ -v_3 \\ -w_3 \end{pmatrix} = Mv \begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix}$$

- 行列 Mv の行列式の値がゼロでなければ, 体積座標 (p,q,r) は, 以下のようにして計算できる.

$$\begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix} = Mv^{-1} \begin{pmatrix} -u_3 \\ -v_3 \\ -w_3 \end{pmatrix}$$

- 得られた体積座標が包含条件をみたせば, 1個の特異点が4面体格子内部に存在する.



特異点の分類

- 特異点が見つかり、速度勾配テンソルJの固有値()にしたがって、これらを分類する。固有値は、以下の特性方程式()に関する3次方程式

$$\det(J - \lambda I) = 0$$

- の解であり、

- 3つの実解
- 1つの実解と一組の共役複素数

$$J = \begin{pmatrix} \frac{\partial u}{\partial x} & \frac{\partial u}{\partial y} & \frac{\partial u}{\partial z} \\ \frac{\partial v}{\partial x} & \frac{\partial v}{\partial y} & \frac{\partial v}{\partial z} \\ \frac{\partial w}{\partial x} & \frac{\partial w}{\partial y} & \frac{\partial w}{\partial z} \end{pmatrix}$$

- の場合が、存在する。

$$J = \begin{pmatrix} \frac{\partial p}{\partial x} & \frac{\partial q}{\partial x} & \frac{\partial r}{\partial x} \\ \frac{\partial p}{\partial y} & \frac{\partial q}{\partial y} & \frac{\partial r}{\partial y} \\ \frac{\partial p}{\partial z} & \frac{\partial q}{\partial z} & \frac{\partial r}{\partial z} \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} \frac{\partial u}{\partial p} & \frac{\partial v}{\partial p} & \frac{\partial w}{\partial p} \\ \frac{\partial u}{\partial q} & \frac{\partial v}{\partial q} & \frac{\partial w}{\partial q} \\ \frac{\partial u}{\partial r} & \frac{\partial v}{\partial r} & \frac{\partial w}{\partial r} \end{pmatrix}$$



特異点の分類

$$\begin{pmatrix} x - x_3 \\ y - y_3 \\ z - z_3 \end{pmatrix} = Mx \begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix}$$

$$Mx = \begin{bmatrix} x_0 - x_3 & u_1 - u_3 & u_2 - u_3 \\ y_0 - y_3 & y_1 - y_3 & y_2 - y_3 \\ z_0 - z_3 & z_1 - z_3 & z_2 - z_3 \end{bmatrix}$$

- 各行について, x, y, z でそれぞれ偏微分すると,

$$I = Mx \times \begin{pmatrix} \frac{\partial p}{\partial x} & \frac{\partial p}{\partial y} & \frac{\partial p}{\partial z} \\ \frac{\partial q}{\partial x} & \frac{\partial q}{\partial y} & \frac{\partial q}{\partial z} \\ \frac{\partial r}{\partial x} & \frac{\partial r}{\partial y} & \frac{\partial r}{\partial z} \end{pmatrix} \quad Mx^{-1} = \begin{pmatrix} \frac{\partial p}{\partial x} & \frac{\partial p}{\partial y} & \frac{\partial p}{\partial z} \\ \frac{\partial q}{\partial x} & \frac{\partial q}{\partial y} & \frac{\partial q}{\partial z} \\ \frac{\partial r}{\partial x} & \frac{\partial r}{\partial y} & \frac{\partial r}{\partial z} \end{pmatrix}$$



特異点の分類

$$\begin{pmatrix} u - u_3 \\ v - v_3 \\ w - w_3 \end{pmatrix} = Mv \begin{pmatrix} p \\ q \\ r \end{pmatrix}$$

$$Mv = \begin{bmatrix} u_0 - u_3 & u_1 - u_3 & u_2 - u_3 \\ v_0 - v_3 & v_1 - v_3 & v_2 - v_3 \\ w_0 - w_3 & w_1 - w_3 & w_2 - w_3 \end{bmatrix}$$

- 各行について, p, q, r でそれぞれ偏微分すると,

$$\begin{pmatrix} \frac{\partial u}{\partial p} & \frac{\partial u}{\partial q} & \frac{\partial u}{\partial r} \\ \frac{\partial v}{\partial p} & \frac{\partial v}{\partial q} & \frac{\partial v}{\partial r} \\ \frac{\partial w}{\partial p} & \frac{\partial w}{\partial q} & \frac{\partial w}{\partial r} \end{pmatrix} = Mv \times I \qquad Mv = \begin{pmatrix} \frac{\partial u}{\partial p} & \frac{\partial u}{\partial q} & \frac{\partial u}{\partial r} \\ \frac{\partial v}{\partial p} & \frac{\partial v}{\partial q} & \frac{\partial v}{\partial r} \\ \frac{\partial w}{\partial p} & \frac{\partial w}{\partial q} & \frac{\partial w}{\partial r} \end{pmatrix}$$



特異点の分類

- 従って, 速度勾配テンソルJは以下のように表される.

$$J = Mx^{-T} \times Mv^T$$
$$= \begin{bmatrix} x_0 - x_3 & x_1 - x_3 & x_2 - x_3 \\ y_0 - y_3 & y_1 - y_3 & y_2 - y_3 \\ z_0 - z_3 & z_1 - z_3 & z_2 - z_3 \end{bmatrix}^{-T} \times \begin{bmatrix} u_0 - u_3 & u_1 - u_3 & u_2 - u_3 \\ v_0 - v_3 & v_1 - v_3 & v_2 - v_3 \\ w_0 - w_3 & w_1 - w_3 & w_2 - w_3 \end{bmatrix}^{-T}$$



まとめ

- **特異点可視化の基本について理解した**
 - **流線表示法**
 - 流線開始点の設定
 - **4面体格子を用いて特異点を求める方法**
 - 体積座標を使った補間
 - 4面体行使内部でのベクタデータ補間
 - 特異点の探索・分類



小テスト(氏名:)

- 黒板で書かれたような4面体の各頂点でベクタデータが定義されているとき、4面体内部に特異点が含まれるかどうか調べよ。また、含まれる場合その特異点を分類せよ。
- koyamada@kudpc.kyoto-u.ac.jp
- <http://www.viz.media.kyoto-u.ac.jp>
- 講義からはいってください